



— 自然免疫と健康維持 —

LSINは、特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク(Nonprofit Organization Linking Setouchi Innate immune Network)の略であり、平成13年に設立された自然免疫賦活技術研究会を母体として、平成18年3月22日に設立されたNPO法人です。詳しくは <http://www.lsin.org> をご覧ください!!

— 第36回自然免疫賦活技術研究会開催される —



平成23年3月25日(金)、サンメッセ香川(香川県高松市)で第36回自然免疫賦活技術研究会が開催され、新規参加3機関を含む計51名(計32機関)が参加しました。

今回の研究会では、四国経済産業局から「技術開発事業」についてご説明いただき、香川県からは「先端技術成果事業化支援事業」、「健康関連産業創出支援事業」をご紹介いただきました。また、かがわ産業支援財団からは「地域イノベーションクラスタープログラム(都市エリア型)事業」の終了と成果についてご発表いただき、四国産業・技術振興センターからは「機能性食品素材研究会」の進捗状況についてご報告いただきました。



特別講演では、東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科ヘルスフード科学(中島董一郎記念)寄附講座教授の矢澤 一良先生より「乳酸菌とサプリメント」と題してご発表いただきました。予防医学の観点から、アンチエイジングとヘルスフード、乳酸菌のヘルスフードへの活用などについてお話いただき、プロバイオティクス、プレバイオティクスに加え、バイオジェニックスの有用性とその在り方について学ぶ会となりました。



本号のニュース

- ・第36回自然免疫賦活技術研究会の開催
- ・LSIN 平成22年度事業報告
- ・自然免疫賦活技術研究会 会員企業紹介
- ・骨代謝改善効果実証試験の実施

— 目次 —

・第36回自然免疫賦活技術研究会開催される	1
・認定NPO法人 認定に向けて	1
・LSIN 平成22年度事業報告	2
・自然免疫賦活技術研究会 会員企業紹介	3
第12回 芳香園製薬株式会社	
・小麦発酵抽出物配合粉末豆乳の骨代謝改善効果実証試験	3
・ひげ博士のホットレポート—最新免疫学講座—	4
・LSIN会員募集	4
・編集後記	4

認定NPO法人 認定に向けて

当法人では、認定NPO法人への認定申請に向け、現在準備を進めております。

下記の認定NPO法人制度関連の特例措置については、適用期限が平成23年6月末まで延長されましたが、平成23年7月以降も同様の措置が継続されるかについては未定です。

<認定NPO制度関係 特別措置>

1. パブリック・サポート・テストの特例
実績判定期間における、経常収入金額のうちに寄附金等収入

金額の占める割合:5分の1

2. 小規模法人の特例
(説明については割愛させていただきます)

3. 初回申請に係る実績判定期間の特例
実績判定期間について2年又は5年のいずれかを選択適用

早急な申請に向けて、更に手続きを進めてまいりますので、引き続き皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

LSIN 平成22年度事業報告

<自然免疫賦活技術研究会の実施・管理・運営事業>

自然免疫賦活技術研究会を計4回開催しました(下記“特定非営利活動法人に係る事業”参照)。大阪大学免疫学フロンティア研究センター自然免疫学分野・審良静男教授をはじめ、各分野で活躍されている方をお招きし、ご講演いただきました。

また、自然免疫賦活技術研究会の部会に所属する機関・企業が連携し、小麦発酵抽出物など自然免疫を賦活する物質に関する製品の研究開発を実施しました。

<自然免疫賦活技術の調査・研究及び普及・啓蒙活動>

連携協定を締結している財団法人三宅医学研究所(香川県高松市)協力の下、効果実証試験(1件)を実施しました。また、過去2回に渡り提案を行った機能的食品等の素材の効能表示を求める構造改革特区に関し、今期は、当法人が組合員として加入している自然免疫制御技術研究組合と共同で地域活性化総合特区に同様の提案を行いました。

一方、自然免疫制御技術研究組合を基盤とした普及・啓蒙活動研究の一環として、一般・企業を対象としたシンポジウム「自然免疫、その新展開」を企画しましたが、東日本大震災の影響により開催を延期しました。シンポジウムの広報を通し、自然免疫賦活技術に対する認知度が高まったと思われます。

以上、これらの活動を通して、本年度は健康維持戦略に関する情報発信を積極的に行い、アウトリーチ活動に貢献しました。

特定非営利活動に係る事業

平成22年度特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

定款の事業名	事業内容	実施内容
①自然免疫賦活技術研究会の実施・管理・運営事業	・自然免疫賦活技術研究会の実施	第33回研究会 6月25日 13:00-17:00
		第34回研究会 10月1日 13:00-17:00
		第35回研究会 12月24日 13:00-17:00
		第36回研究会 3月25日 13:00-17:00
②自然免疫賦活技術の調査・研究及び普及・啓蒙活動	効果実証試験受託事業 (完了1件、実施途中1件)	10月~3月
		品質保証受託事業(計0件)
		本法人の活動内容を公開するホームページ更新 随時
		本法人の活動内容を公開するニュースレターの発行 6月、9月、12月、3月
		本法人の活動内容を紹介するパンフレット発行 随時
③自然免疫賦活技術に係る産官学相互の技術移転支援事業	講演会	5月~6月
		自然免疫制御技術研究組合を基盤とした普及・啓蒙活動 4月~3月
		今期は実施しなかった。

科目	金額(単位:円)	
(資金収支の部)		
I 経常収入の部		
1 会費・入会金収入	970,000	
2 事業収入	2,934,245	
3 その他	711,426	
経常収入合計		4,615,671
II 経常支出の部		
1 事業費	3,393,964	
2 管理費	1,788,566	
3 旅費・交通費・謝金	153,109	
経常支出合計		5,335,639
経常収支差額		△719,968
III その他資金収入の部		
1 固定資産売却収入	0	
2 その他	0	
その他の資金収入合計		0
IV その他の資金支出の部		
1 固定資産取得支出	0	
2 その他	150,000	
3 予備費	0	
その他資金支出合計		150,000
当期収支差額		△869,968
前期繰越収支差額		1,120,504
次期繰越収支差額		250,536
(正味財産の部)		
V 正味財産増加の部		
1 資産増加額	△869,968	
2 負債減少額	0	
増加額合計		△869,968
VI 正味財産減少の部		
1 資産減少額	0	
2 負債増加額		
減少額合計		0
当期正味財産増加額		△869,968
前期繰越正味財産額		1,120,504
当期正味財産合計		250,536

④ 芳香園製薬株式会社

芳香園製薬株式会社は、昭和25年に個人製薬業者として誕生し、昭和35年7月に株式会社として法人化いたしました。

もともと、製薬企業として出発いたしました。現在は、医薬品製造販売業・製造業の他、医薬部外品製造販売業・製造業、化粧品製造販売業・製造業、医療機器製造販売業・製造業の許可も取得しております。更に医薬品の製造技術を利用して、健康食品・サプリメントの製造も行っております。

市場開拓にあたっては創業時より薬局・薬店への直接販売システム(直販体制)を確立してまいりました。

独自の直販体制によるメリットは、流通段階での余分なクッションを排除し、消費者により安く、より確実に商品を提供することが可能となるだけでなく、正しい商品知識を、お得意先である薬局・薬店へ直接に伝えることができる点です。

また、お得意先を通じて消費者の生きた情報を的確かつ迅速に収集することが可能で、これが新規商品の開発に生かされています。

近年、ドラッグストアの進出や改正薬事法による他業種からの医薬品販売参入など、薬局・薬店を取り巻く経済環境は厳しくなっております。



そこで新規市場として、健康食品・サプリメントの受託製造も行っております。

現在、セルフメディケーションの時代を迎え、健康食品などの需要は大きく広がっております。また、高齢化社会を迎え、健康に対する関心は大変高まっており、それに応える業態も大変なスピードで進化を遂げつつあります。

私共ではそのニーズに幅広くお応えするためにPB・OEM商品の受託製造を承っております。お客様と併に内容成分の構成を検討し、市場ニーズに対応した処方内容をご提案させていただき、満足いただける商品をご提供いたします。

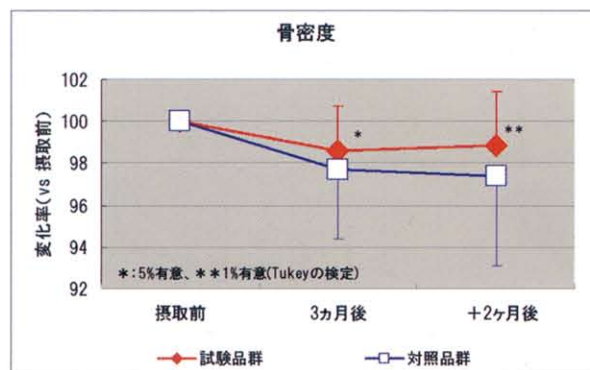
小麦発酵抽出物配合粉末豆乳の骨代謝改善効果実証試験の実施

LSINでは、平成22年10月～平成23年3月にかけて、『40歳以上の女性を対象にした小麦発酵抽出物配合粉末豆乳飲料のダブルブラインド試験での3ヶ月摂取による骨代謝改善効果の実証試験』を行いました。

その結果、骨密度において、試験品群(22名)が対照品群(26名)と比較して有意に改善効果がありました(右図参照)。従って、小麦発酵抽出物配合の粉末豆乳飲料は骨粗鬆症予防および骨密度の増加に期待ができることが示唆されました。

尚、脱落率は全体で8%でしたが、味の不快感による脱落者が一人もいなかったことから、継続可能な商品となっていることも確認されました。

効果実証試験はLSIN内に設置した倫理委員会で承認を得た後、疫学調査に関するガイドラインに基づいて連携医療機関：(財)三宅医学研究所附属セントラルパーククリニックで行いました。



【試験対象品】小麦発酵抽出物配合の粉末豆乳飲料
 【試験対象者】40歳以上80歳未満の女性
 【試験スケジュール】3ヶ月間、1日1包摂取、①摂取前、②摂取後(3ヶ月後)、③摂取終了の約2ヶ月後(追跡調査)の計3回、骨密度、骨代謝マーカー等を調査しました。

*本試験は「かがわ糖質バイオ発新商品開発支援事業」の支援を受けました。

皆さん。ひげ博士じゃ。今日はマクロファージを使った新しい肝臓の治療法を紹介しよう。

飲み過ぎても肝臓は
教えてくれない〜から



肝臓は様々な働きをしており体内の化学工場と言われておる。そして、肝臓は人間の中で最も再生能力が高い臓器じゃ。しかし、B、C型肝炎ウイルスや慢性的なアルコール摂取などによって肝臓が持続的に障害され、だんだん線維化が進むと肝硬変になってしまうのじゃ。日本では30万人ぐらいの患者さんがいると言われてる。肝硬変が広がると、だんだん肝臓が機能しなくなり、そうすると、肝移植が最後の治療法になる。

日本では生体肝移植が行われておるが、大変な費用と拒絶反応などの問題がある。その中で、近年、自分の骨髄から採取した細胞を点滴して体に入れるという簡単な方法ながら、すばらしい効果を上げて注目されている治療法がある。

そして、つい最近になって、いろいろな種類の骨髄細胞の中でも、マクロファージになる細胞が肝硬変の改善に重要な役割を果たしていることが動物実験で明らかにされたのじゃ(Hepatology, 2011, 53: 2003-2015)。骨髄の細胞からマクロファージをM-CSFというサイトカインで育ててから肝硬変モデルマウスに移入すると、このマクロファージが肝臓で起きている炎症の質を変えて、その結果、炎症を抑えて、線維を溶かして健康な肝臓を取り戻せるのじゃ。

マクロファージの性格をきちんと制御してあげると、難病と言われてきた病気でも治療出来る手法が生まれることを示す一例じゃな。

LSIN会員募集

LSINでは会員を募集しています。LSINの活動に賛同していただける方であれば、どなたでも入会できます。

●入会金・年会費一覧

入会を希望される方は、以下の入会手続きをご参考ください。

(1)ホームページからの入会手続き

下記のURLにアクセスし、ホームページ内の「入会のご案内」→「入会申込フォーム」に必要事項を明記の上、お申込ください。

LSIN URL : <http://www.lsin.org>

(2)郵送またはFAXによる入会手続き

「入会申込書」をLSIN事務局まで郵送あるいはFAXでご請求下さい。

「入会申込書」に必要事項を明記の上、事務局まで郵送あるいはFAXにて送付ください。

「入会申込書」の下部に記載している振込先へ、入会金・年会費をお振込ください。

事務局から「入会手続き完了」の連絡をお送りします。

※「入会手続き完了」のご連絡は、事務局にて入会申込書と入金を照合し、入会手続きが完了した時点でお送りします。

入会申込書の送付と入会金・年会費のお振込完了後、2週間を過ぎても連絡がない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

入会金			年会費		
正会員	個人会員	10,000円	正会員	個人会員	10,000円
	企業会員	30,000円		企業会員	50,000円
賛助会員	個人会員	10,000円	賛助会員	個人会員	10,000円
	企業会員	30,000円		企業会員	50,000円
モニター会員	入会金なし		モニター会員	年会費なし	

〒761-0301 香川県高松市林町2217-16
FROM香川バイオ研究室

特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク

TEL:087-813-9201 FAX:087-813-9203
(MOBILE:090-2783-5885)

E-mail: npolsinlsin@lsin.org URL: <http://www.lsin.org>

編集後記

LSIN会員の皆様、ニュースレターNo.15をお届けします。

本号では、LSINの平成22年度事業報告をいたしました。

特定非営利活動に係る事業は、自然免疫賦活技術研究会を4回実施、効果実証試験を1件完了、1件実施中、また、講演会を実施しております。これらの活動を通して、健康維持戦略に関する情報発信を積極的に行い、アウトリーチ活動に貢献しました。事業会計収支は、単年度で869,968円の赤字でした。

平成23年度も積極的にアウトリーチ活動を行い、自然免疫をメインとした健康維持に関する情報を発信していきます。

また、事業会計収支も赤字を減らすべく、引き続きLSIN会員の募集、効果実証試験や品質保証事業の受託に努めます。

最後になりますが、お忙しい中、原稿をご執筆いただいた方々、編集委員の皆様にご心より厚くお礼申し上げます。

編集長 中本 尊

LSIN事務局

LSINニュースレター編集委員

編集長 中本 尊 編集員 稲川裕之 中本優子 谷口芳枝

平成23年6月17日発行